

## 平成19年度上期 販売電力量

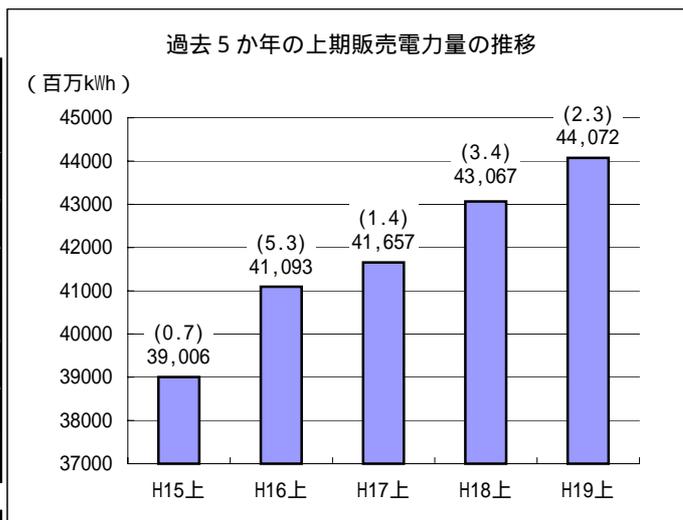
### 1 概況

平成19年度上期の販売電力量は、440億72百万kWhとなり、前年同期に対し+2.3%となりました。

(平成15年度上期以降5年連続で前年を上回り、上期の販売電力量としては過去最高)

用途別実績 (百万kWh,%)

		実績	前年比
特定規模 需要以外 の需要	電 灯	14,033	0.1
	電 低 圧	2,758	2.2
	力 そ の 他	465	3.6
	電灯電力計	17,256	0.4
特定規模 需要	業 務 用	10,607	2.1
	産 業 用	16,209	5.6
	特定規模需要計	26,816	4.2
販売電力量合計		44,072	2.3
再 掲	一 般 需 要	31,339	0.2
	大 口 電 力	12,733	7.9



( )は対前年伸び率

平成19年度月別対前年比 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
一般需要	1.9	1.7	3.0	1.4	4.2	2.6
大口電力	5.2	6.1	7.7	7.0	8.7	12.4
合計	0.1	3.0	4.5	3.0	1.1	5.0

過去5か年の上期前年比 (%)

	H15上	H16上	H17上	H18上	H19上
一般需要	0.4	6.0	0.8	2.4	0.2
大口電力	1.6	3.5	2.9	6.1	7.9
合計	0.7	5.3	1.4	3.4	2.3

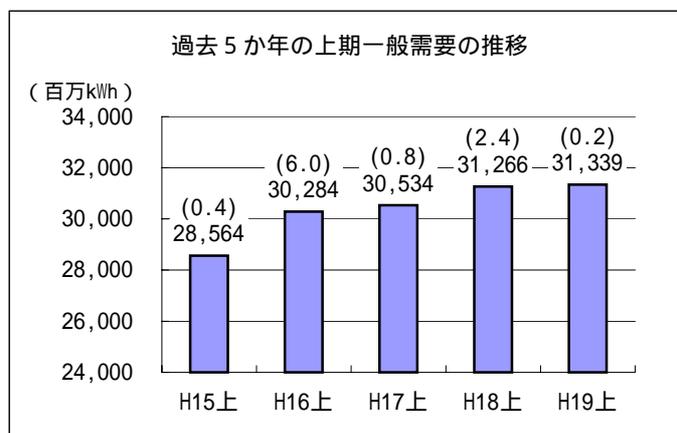
### 2 用途別実績

(1) 一般需要(販売電力量合計から大口電力を除いたもの)

商業施設の新規出店などによる業務用電力の伸びがあったものの、気温が前年に比べ7月は低めに、8月以降は高めに推移したことにより冷房需要が前年並みであったことなどから、前年同期に対し+0.2%となりました。

平均気温(九州) ( )

	実績	平年差	前年差
4月	15.1	0.1	0.2
5月	20.3	1.0	0.5
6月	23.8	1.0	0.3
7月	26.6	0.3	1.0
8月	29.0	1.5	0.2
9月	27.1	3.0	3.1



( )は対前年伸び率

(2) 大口電力需要

輸送用機械や鉄鋼、化学などで生産が堅調に推移したことや、原油価格の高騰を受け、自家発電から当社買電への切替えがあったことなどから、前年同期に対し +7.9%となりました。

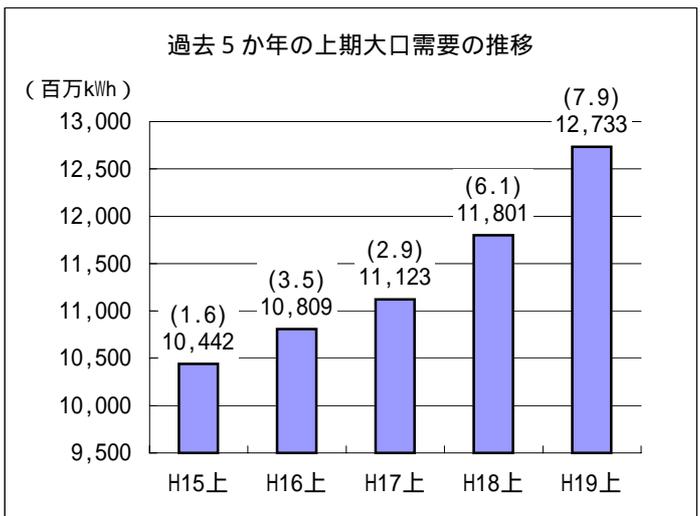
(百万kWh, %)

	実績	前年比	構成比	特 徴
機 械 計	3,991	6.5	31.3	
電気機械	2,967	3.6	23.3	一部工場におけるデジタル家電向け電子部品の生産増など
輸送用機械	722	15.8	5.7	一部新工場の稼働増や、一部工場の生産増など
鉄 鋼	1,533	14.1	12.0	一部工場の生産増や、一部工場の前年度設備改修工事の反動増など
化 学	1,236	10.5	9.7	一部新工場の稼働増や、一部工場の生産増など
窯 業 土 石	614	0.6	4.8	一部工場の自家発電稼働増など
非 鉄 金 属	835	4.1	6.6	一部工場の新設や、一部工場のシリコンウエハー生産増など
大 口 電 力	12,733	7.9	100.0	

(注) その他があるため各項目の合計は大口電力合計と一致しない。

至近5期大口電力主要業種別対前年比 ( % )

	H17		H18		H19
	上	下	上	下	上
機 械 計	2.0	5.5	6.6	6.2	6.5
電気機械	1.2	4.0	5.1	4.2	3.6
輸送用機械	3.5	9.7	12.2	12.0	15.8
鉄 鋼	1.9	2.4	5.9	16.7	14.1
化 学	6.5	14.3	15.4	7.6	10.5
窯 業 土 石	8.3	7.4	14.0	11.9	0.6
非 鉄 金 属	11.0	10.8	9.8	7.2	4.1
大 口 電 力	2.9	6.3	6.1	7.4	7.9

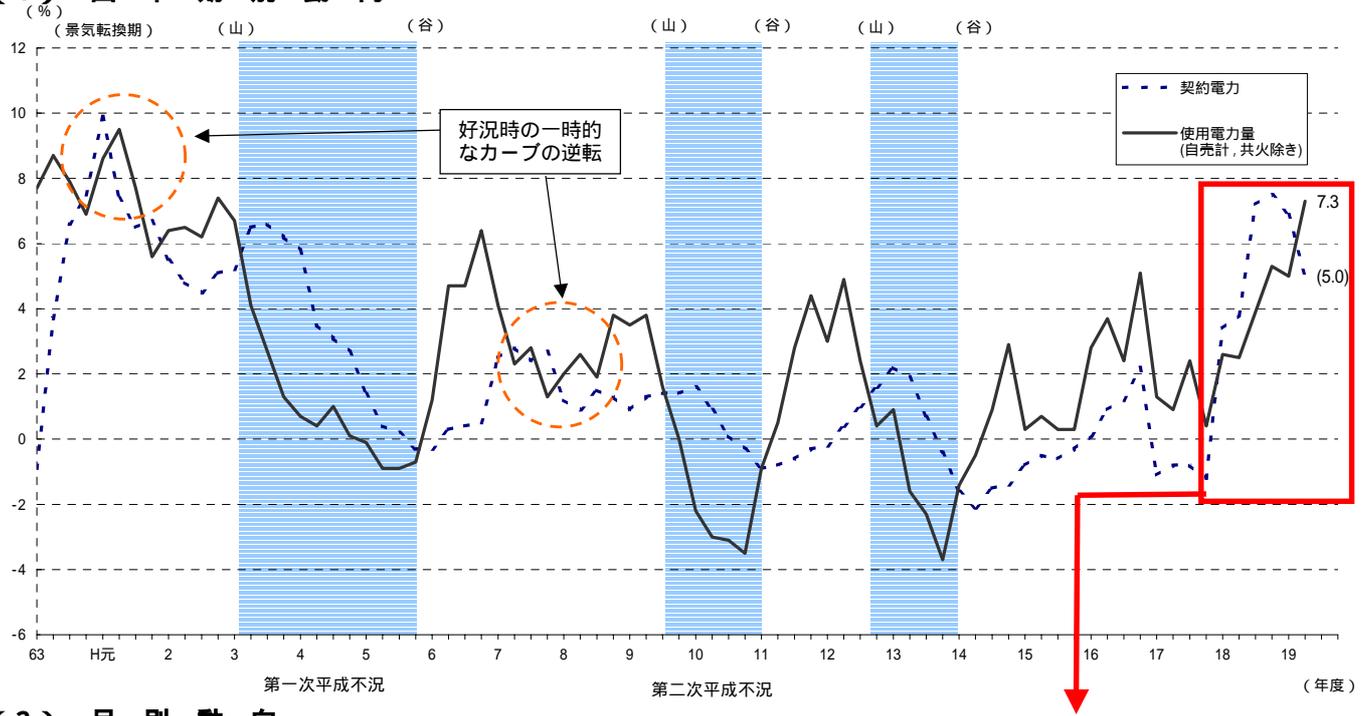


( )は対前年伸び率

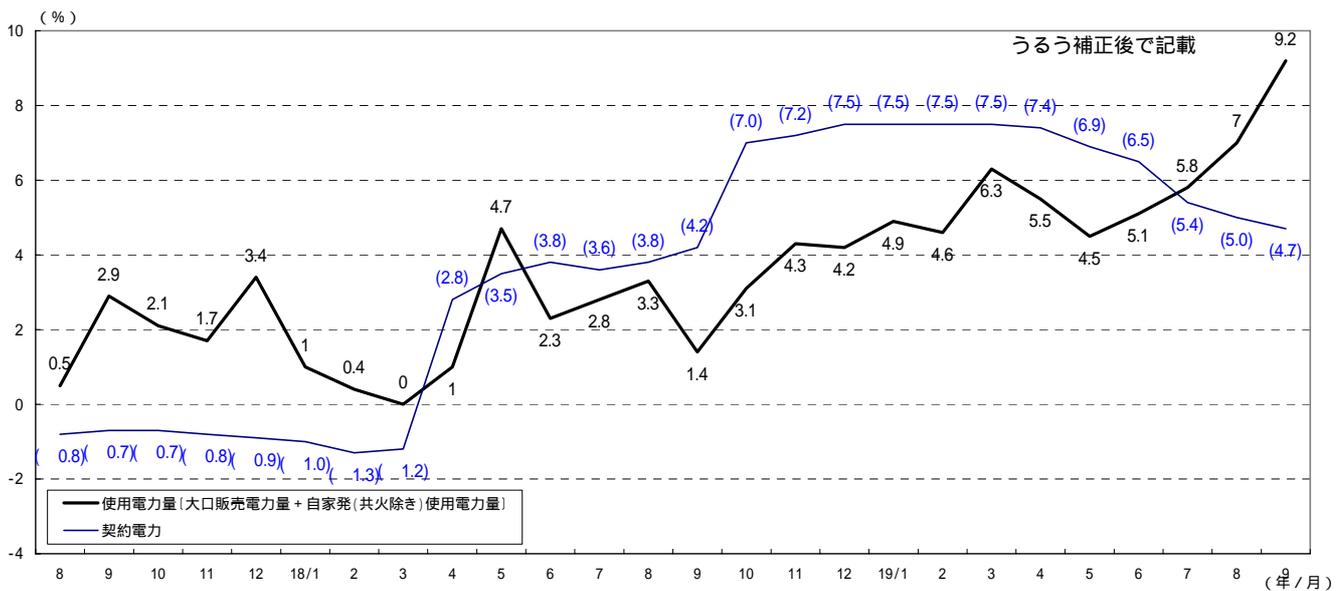
以 上

## 大口電力の契約電力と使用電力量の推移（大口カーブ）

### (1) 四半期別動向



### (2) 月別動向



### 大口カーブについて

景気動向の物差しの一つとしている大口カーブについては、3か月連続で使用電力量の伸びが契約電力の伸びを上回りました。

これは、平成18年度以降、使用電力量の伸びが契約電力の伸びを下回ることとなった特殊要因としての自家発電影響が、一巡しつつあること等によるものと考えられます。

大口カーブは一般的に、「使用電力量」の伸びが生産活動の活発さを、「契約電力」の伸びが工場などの生産能力と、設備投資の伸びを反映しており、好況時には使用電力量の伸びが契約電力の伸びを上回り、不況時にはその逆の現象が起こります。

平成18年6月以降、「使用電力量」の伸びが「契約電力」の伸びを下回っていました。これは、原油価格高騰による自家発電から買電への切替えなどの特殊要因によるものであり、景気動向の陰りを示したのではないと考えられます。

## < 大口カーブの諸元 >

上段：大口契約電力対前年同期比（％）

下段：大口販売電力量 + 自家発電使用電力量(共火除き：うるう補正後)の対前年同期比（％）

(四半期)

	63				元				2			
契約電力	0.9	3.7	6.6	7.5	9.9	7.4	6.5	6.7	5.5	4.8	4.5	5.1
使用電力量	7.7	8.7	7.9	6.9	8.6	9.5	7.7	5.6	6.4	6.5	6.2	7.4

← 第一次平成不況 →

	3				4				5			
契約電力	5.2	6.5	6.6	6.2	5.8	3.5	3.1	2.7	1.4	0.4	0.2	0.3
使用電力量	6.7	4.1	2.7	1.3	0.7	0.4	1.0	0.1	0.1	0.9	0.9	0.7

	6				7				8			
契約電力	0.3	0.3	0.4	0.5	2.5	2.8	2.4	2.7	1.2	0.9	1.5	1.3
使用電力量	1.2	4.7	4.7	6.4	4.1	2.3	2.8	1.3	2.0	2.6	1.9	3.8

← 第二次平成不況 →

	9				10				11			
契約電力	0.9	1.3	1.4	1.4	1.6	0.9	0.1	0.3	0.9	0.8	0.6	0.3
使用電力量	3.5	3.8	1.6	0.0	2.2	3.0	3.1	3.5	0.9	0.5	2.8	4.4

	12				13				14			
契約電力	0.2	0.4	1.0	1.6	2.2	1.9	0.7	0.4	1.6	2.1	1.5	1.4
使用電力量	3.0	4.9	2.4	0.4	0.9	1.6	2.3	3.7	1.4	0.5	0.9	2.9

	15				16				17			
契約電力	0.8	0.5	0.6	0.3	0.1	0.9	1.2	2.2	1.1	0.8	0.8	1.2
使用電力量	0.3	0.7	0.3	0.3	2.8	3.7	2.4	5.1	1.3	0.9	2.4	0.4

うるう補正前<1.1>

うるう補正前<4.3>

	18				19							
契約電力	3.4	3.8	7.2	7.5	6.9	5.0						
使用電力量	2.6	2.5	3.9	5.3	5.0	7.3						

(月別)

	16/4	5	6	7	8	9	10	11	12	17/1	2	3
契約電力	0.0	0.0	0.2	0.7	1.0	1.0	1.0	1.2	1.5	1.9	2.3	2.5
使用電力量	0.7	3.2	4.3	5.2	4.6	1.3	2.1	2.6	2.6	3.5	5.6	6.2

うるう補正前<3.1>

	17/4	5	6	7	8	9	10	11	12	18/1	2	3
契約電力	1.0	1.2	1.0	0.8	0.8	0.7	0.7	0.8	0.9	1.0	1.3	1.2
使用電力量	3.8	0.9	1.0	0.7	0.5	2.9	2.1	1.7	3.4	1.0	0.4	0.0

	18/4	5	6	7	8	9	10	11	12	19/1	2	3
契約電力	2.8	3.5	3.8	3.6	3.8	4.2	7.0	7.2	7.5	7.5	7.5	7.5
使用電力量	1.0	4.7	2.3	2.8	3.3	1.4	3.1	4.3	4.2	4.9	4.6	6.3

	19/4	5	6	7	8	9	10	11	12	20/1	2	3
契約電力	7.4	6.9	6.5	5.4	5.0	4.7						
使用電力量	5.5	4.5	5.1	5.8	7.0	9.2						